



— 発行者 —
福島県公立学校退職校長会
福島支部長 鈴木昭雄

— 編集広報部 —
— 題 字 —
第119号 高橋 藤園

あいらじ



福島県公立学校退職校長会
福島支部長 鈴木昭雄

さる四月二十二日に開催され
た総会におきまして、支部長を
拝命しました鈴木昭雄と申しま
す。もともと浅学菲才であり、
支部長の職は、重すぎるので
が、事務局の皆様、理事の皆様
のお力をお借りして、本会の目
的達成のため、誠心誠意務めさ
せていただきますので、よろしく
お願い申し上げます。

まず初めに鈴木暉夫前支部長
のご功績と本会の運営をリード
していただきましたことに対し
まして、深く感謝申し上げます。
さらには、これまで長年、理事
として、支部事務局と会員の皆
様をつなぐお仕事を誠心誠意務
めていただき、今回退任された
理事の皆様方にも改めて敬意を
表するものであります。

さて、令和二年二月ごろより
新型コロナウイルスが感染拡大し始めて、

早二年半を経過しようとしてい
ます。退職校長会福島支部とし
ても、感染防止に最大限に対応
するため、これまで、総会につ
いては、令和二年度は講演の休
止などのスリム化、さらに令和
三年度には、理事会と総会を同
日に実施し、総会は参加者の限
定(理事・役員・事務局)、懇
親会や長寿者招待の取り止めな
どにより実施し、令和四年度も
同形態で実施したところであ
ります。また、県大会も二年度の
会津大会が一年延期になり、三
年度も書面での開催となりまし
た。四年度の郡山大会も、一年
延期になり、五年度開催で進ん
でおります。更には、一部のク
ラブ活動も、活動自粛や制限な
ども出てきております。

このような状況で懸念される
こととしては、総会や県大会の

実施に付随する人と人との面と
向かつての直接的な交流や情報
交換等の機会が失われてしま
うこと、また、これらの会の実施
に向けてのノウハウが受け継が
れなくなってしまうこと、そし
て実施しないことに慣れてしま
い、その役割自体が果たされな
いまま無くなってしまうのでは
ないか、などがあると思います。
コレラについてですが、本年
四月二十二日の福島民友新聞の
「マイストーリー」に掲載され
た諸橋近代美術館館長の諸橋英二
氏の次の一節に対策の一つのヒ
ントがあると感じています。
『美術館は豪雪地帯にあるた
め、冬の間は休館する。例年四
月下旬に再開するのだが、二〇
二〇(令和二)年は新型コロナ
ウイルス感染拡大で五月三十一
日まで休館を延長した。この期
間最も恐れていたのは、私たち
が休館することに慣れて、完全
な思考停止に陥ることだった。
休館するのは簡単だが、何もし
ないことに慣れると、このまま
できない理由ばかり並べ続けて
しまうのではないか、そんな不
安に襲われ、一日も早く再開し
たかった。しかし、職員たちは

休館中もどんどんアイデアを出
し、ときにはと実行に移して
くられて、すぐにそんな心配は無
用だったと分かった。』

役員の皆様とともに、本会の
目的達成に向けた「会員相互の
親睦会・クラブ活動」、「会員の
互助、慶弔」、「会員の生活上
を図る」等の諸事業の再開や充
実を常に想定し、思考を停止し
ないで準備して置くことを心し、
あいらじとさせていただきます。

新会員紹介

◇新しく十一名の皆様が入会さ
れました。退職後の生活をよ
り豊かに送るために共に頑張
りましょう。(敬称略)

- | | |
|-----|------|
| 笹谷 | 佐藤成紀 |
| 瀬上B | 佐藤浩哉 |
| 渡利B | 高橋政広 |
| 西部B | 唯木常晴 |
| 清水A | 斎藤剛 |
| 特別区 | 加藤知道 |
| 飯坂B | 岩下聡 |
| 清水A | 佐藤秀美 |
| 松川 | 菅野信幸 |
| 北部B | 高島秀一 |
| 笹谷 | 齋藤秀樹 |

今、小学校では

福島地区小学校長会長 丹 治 秀 樹
(福島市立福島第四小学校長)

福島県公立学校退職校長会福島支部の皆様には、常日頃より大変お世話になっております。福島地区の公立小学校は統廃合が進み、令和四年度は、福島市が昨年度から一校減の四十五校、川俣町が四校減で一校(休業一校)となり、附属小学校を加えて四十七校、五方部でスタートいたしました。

昨年度末からの新型コロナウイルス感染症第六波では、子どもたちが感染する割合が高く、多くの小学校で児童の出席停止、学級閉鎖などの対応を取らざるを得ませんでした。

しかし、そのような中でも子どもたちの学びを保障しなければなりません。コロナ禍によって一気に進んだ学校のICT化は、児童一人一台のタブレット端末とウェブ会議システムを活用して、学校と家庭を結びオンライン授業を可能にしました。本校では、出席停止の児童が自宅からタブレット端末を活用して、オンラインで授業に参加する姿がたびたび見られました。

集会活動にもウェブ会議システムは有効です。全校児童を体育館に集めることができないうち、中規模校では、各教室や体育館をオンラインで結んで集会や儀式を行っています。

ICTを活用しつつ、一方で子どもたちに豊かな体験もさせたいと、各校は創意工夫しながら行事等の教育活動を展開してまいりました。

本校では、昨年度は学校単独で実施した五月の運動会を、三年ぶりに地区体育協会と合同で開催いたしました。コロナ禍前と同じ規模ではできませんでしたが、地域の名物であった種目の一部を復活させることができ、子どもたち、保護者、地域の皆様、そして教職員が心から楽しむことができた運動会となりました。

福島市では、三年ぶりとなる鼓笛パレードを五月に実施することができました。参加児童及び参観する保護者等の健康・安全に配慮し、会場を「とうほう・みんなのスタジアム」として、一校ずつ七分間の持ち時間で進行・演奏いたしました。働き方改革の側面から、小学校長会と市教育委員会では、練習の効率化を図るため演奏曲を一曲にすることを決め、指導する教員及び子どもたちの負担を軽減して本番を迎えました。子どもたちの達成感にあふれた表情と保護者から寄せられた感動の声によって、意義ある行事であることを改めて確認いたしました。

地区小学校長会の取組としては、七月上旬、東北連小岩手大会が盛岡市において三年ぶりに参集型で開催され、本地区から三十六名が参加いたしました。郷土の復興・発展を支える人材の育成や様々な課題について、十分科会に分かれて各県の校長と対面で協議する場をもち、有意義な研修会となりました。

夏休み期間中、第七波が猛威を振るっており、二学期以降も心配は尽きません。教員不足という大きな課題を抱えた学校もあります。子どもたちの健康を守り、学びを保障し、豊かな体験の場を設けるために、各校の校長は教職員とともに今後も努力を続けてまいります。

第五十八回 支部総会開催

今年度の支部総会は、新型コロナウイルスの改善の兆しが見えない中、四月二十二日、アオウゼにおいて昨年度と同じ支部役員、理事の皆様の出席により開催されました。

総会に先立ち開催された第一回理事会において、新しい方理事の皆様へ委嘱状が交付され、任期途中ではありましたが鈴木暉夫支部長の退任に伴い、新しい支部長に鈴木昭雄氏が出されました。

引き続き佐久間修理事を議長に選出し総会が開催され、令和三年度事業報告・決算報告、令和四年度の事業計画案・予算案について審議され原案通り承認されました。



鈴木暉夫支部長からは「大橋前支部長の後の一年間であったが、副支部長としては三期六年間、福島市での県大会等々、会員の皆様の協力に感謝したい」。また、鈴木昭雄新支部長からは「各方向理事の皆様とともに福島支部の活性化を目指したい」との挨拶があり、鈴木暉夫前支部長を顧問に推薦し総会は終了しました。

新たに名誉会員になられた皆様

- 昭和七年三月三十一日以前にお生まれの皆様
- 笹谷 石井 健 雄様
 - 瀬上 A 菅原 弘 様
 - 清水 A 遠藤 幸 吉様
 - 吾妻 A 横山 成 雄様
 - 南沢又 A 棚木 和 夫様
 - 吾妻 A 小室 昭 様
 - 中部 橘 浩二郎様
 - 飯坂 B 戸田 満 夫様

米寿を迎えて

米寿と職業病と

東部 A 目黒 穆雄

ラジオ体操をほぼ毎朝続けているから、もう六十年になる。二十八歳の時から始めたから、米寿だとそういうことになる。

そもそも本格的なラジオ体操との出会いは、へき地校に赴任した時からである。その時の教頭先生から『若い男の先生は、五月の運動会で指揮台の上でラジオ体操の指揮をとってもらうことになる。地区の人達も一緒に。間違ったりすると学校の恥になる。』と宣告された。

当時、ソノシートという物があつた。早速、ラジオ体操のシートを購入し、添付されている手引書を参考にしながら、練習を繰り返した。

運動会が終わってから、教頭先生から『よくできた。よかった。』とお褒めを頂いた。

これが六十年間続いているラジオ体操の発端になった。来年、もしかして若い男の先生が着任してこなければ、翌年も指揮台にのることになる。教

頭先生のお褒めの言葉を裏切りたくない一念もあって、朝六時半のラジオ体操に合わせて毎朝続けた。最後にはそれが病みつきたつた。これは、教職にあつて取りつかれた一種の職業病なのかも知れない。

海外教育事情の視察に参加させて頂いた折は小型録音機にラジオ体操を録音し持参して、毎日続けた。また現在でも敬老会の宿泊旅行へ参加した時など宿の玄関先やまだ誰もいない早朝の風呂場でやつたりしている。

とにかく一日も欠かさずやるのが習慣になつている。朝にラジオ体操をやると身体が爽やかで、心も落ち着く。朝、六時半に間に合うように起床する習慣は、日々の生活に規律が生まれるような気がする。朝、ラジオ体操をやらな

一日が始まらない気分である。米寿の今日でも病がなく、周囲にも迷惑をかけずに過ごさせて頂いているのは、病みつきたつたラジオ体操という職業病のお陰かも知れない。

歳を重ねると良いことも沢山ある。若い頃には、見えなかつた

共生がいい

清水 A 齋藤 眞

コロナ禍での外出自粛生活で三つの柱をあげますと、

① 家庭菜園・樹木の手入れ

農業を控え、種から育てようとはしますが、虫や小鳥の恰好の餌となりがちで、収穫は虫や鳥との折半、共生を良しとしています。

② 天気が悪ければ本読み

もつぱら乱読。気ままな読書。雨も良し、庭も恵みの雨。

③ 日曜大工の目覚め

「作業机」を作つたり、廊下の「床を張り替え」たり、階段に「手すり」をつけたり、釣りに用具の整理のため「釣り竿立て」を作つたりしています。

あれから十一年、阿武隈川での禁漁が続いていますが、高齢

た事も見えるようになるし聞けなかつた事も聞けるようになる。今では、職業病のラジオ体操

を通して一日でも生きながらえるのが最大の趣味となつている。

者は放射能より元気なうちに故郷の山河での釣行再開が望まれます。外出自粛が解けたなら金華山沖の大ヒラメやカレイ、アテナメ。日本海のアジ、ブリ釣り再開を楽しみに準備中。

このたび登録二十年になる我が家の小型車が車検を迎えました。しかし、十四年以上の車は重量税が加算されたり、高齢者はアシスト付きの車以外の所有排除の風が強く何か行き過ぎの感がします。

車の評価額は零円ですし、むしろ税も零円の方が似合います。日本が誇る「物を大切に」の文化が能率・効率優先の考えにかき消されないか心配します。

「入念に使い込んだ物には魂が宿る」の教えのもと、魂を込めて「高齢車」と共生を楽しむべく車検を更新しました。郊外ではまだキビキビとリッター当たり二十kmは走る優れたものです。エコです。

また、今回の運転免許証の更新で「認知機能検査」が百点満点の通知書もらい少し嬉しさを味わつた運転免許更新でした。

これからの努力目標としては、後期高齢者であることを自覚し

ながら、人に迷惑をかけないで、平和で自由な日々を、のびのびと楽しみ、少し品のあるふるまいに気をつけようと思つているところです。

更にも、物にも、動植物にも相手にされるような共生するおらかな高齢者。 やつぱり共生 共生がいい

米寿を迎えられた 会員の皆様

本年度は昭和十年にお生まれの次の方々が米寿お祝いに該当しました。例年ならば、支部総会の中でお祝いたすところでしたがが新型コロナウイルスのために昨年同様、該当方担当理事が自宅を訪問し記念品をお渡ししました。

- 蓬 菜 齋 藤 弘 様
- 特別区 大 竹 寅 八 郎 様
- 清水 A 鳴 原 弥 様
- 東部 A 目 黒 穆 雄 様
- 清水 A 齋 藤 眞 様
- 川 俣 菅 野 信 一 様

ふれあい広場

— 方部会員紹介 —

随想「最後の一句」

西部B 鎌倉 雅臣

二〇二二年七月九日、没後百年を迎えた明治の文豪・森鷗外（森鷗外）の小説に「最後の一句」という作品がある。かつては教科書にも教材として取り上げられていたのだが、最近すっかり姿を消してしまつた。

あらずじは大方の方はご存じであろう。簡単に述べると、元文三年（一七八八年）大阪の船乗り・太郎兵衛は、知人の不正を被ることで死罪に。家族は悲嘆にくれるが、長女いちとその息子たちは父の無罪を信じる。死刑を執行する行政（大阪町奉行）に助命の願書を出し、父の代わりに、自身と兄弟たちを死罪にするよう申し立てる。その山場は、奉行所にて主人公の十六歳の長女いちが奉行に向かつて放った言葉が問題となるのである。

上げられなくなつたと思うのは、下衆の勘繰りであろうか。

昨今の行政や政治のあり方にあれこれ申し述べる元氣はないのであるが、今一度この言葉を

反芻してみても悪くはないのである。お上への痛切な皮肉とともに、少女いちの強さについて改めて考えてみたい。通常、私たちは「お上の事には間違はない」と思っており、お上の事に一々反対するつもりはないが、昨今の行政や政治の有り様を覗くとジレンマを感じざるを得ないでいる。平野啓一郎氏は「私たちが民主主義の世界に生きて以上は、自分たちが人間らしく生きられるための社会の仕組みというのは何かということ、常に考え続けなきゃいけない。そんなことを気づかせてくれる、非常に現代的な作品だ」といつている。

閑話休題、最後の一句といえど、誰しもが思うところは辞世の句であろう。特にこの年代になると心身の衰えとともに病の感覚と若かりし時の夢を思い起こすのであるが、やはり松尾芭蕉の「旅に病んで夢は枯れ野を

駆け廻る」の句であろうか。風羅坊として風狂反俗の生涯を閉じたのであるが、この句の中には誰しもが感ずるところかもしれない。

しかし、芭蕉はこの句を作つた後、自作に手を加えている句がある。死の三日前に「清滝や波に散り込む青松葉」の句を詠んでいる。初案は「清滝や波に塵なき夏の月」とあり、落柿舎滞在中の吟である。初・改案とも清滝の清涼感が主題となっている。自らの死を予感している中でのこの清涼感には心打たれるものを感じる。なぜ芭蕉は最後にこの句に手を入れようとしたのか。どちらが辞世の句かは学者の議論を待つしかないが、両者併せて提示されているところに芭蕉の生と旅と死の意義を見いだしたいものである。

この二つの「最後の一句」を前にして、我々が社会と自己との、あるいは自然と自己との境界にたつたときにどのような心境を持つていったらよいのであろうか。まだまだ勉強の日々である。

自分にとって「最後の一句」とはなんであるか、を改めて考えるよい機会であつた。

支部長退任のあいさつ

鈴木 暉夫

この度は鈴木昭雄先生に福島支部長の任務を引き継いでいただくことになり、心強く感じています。福島支部の舵取りよろしくお願い致します。

私は平成二十七年五月、支部総会において副支部長に選任されました。以来、関係の皆様方には大変お世話になりました。前任の副支部長 故 高橋薫先生から「事務局会があるからちよつと出席して欲しい」と言われ、深く考えもせずに後任をお引き受け致しました。

それから、副支部長三期六年、支部長一年、合計七年、こんなに長い間、退職校長会福島支部と関わりを持つことになるとは予想もできませんでした。この間、会員の皆様、理事と事務局の皆様には大変お世話になりました。心よりお礼を申し上げます。これからは一会員又は顧問として福島支部を応援して参りたいと思っております。

ゆつたりと老いの日刻む花時計
一日の疲れを癒す長い風呂
気晴らしに爺の冒険ブチ家出
帳尻があつて安堵の星月夜

新旧役員紹介

支部役員（支部長）・四方部の理事の皆様が交代いたしました。旧役員、理事の皆様には長年ありがとうございました。（敬称略）

旧 新

○支部役員（支部長）

鈴木 暉夫 鈴木 昭雄

○理事 事（方部）

東部A 関口 史子 本多 充

松川 佐藤 秀雄 斎藤 吉成

中部 三瓶 良一 工藤 裕也

飯坂A 佐藤 勝章 福地 敏教

編集後記

新型コロナウイルスの感染者も一向に減らず、福島市内でも八月に入り、毎日三百人前後の感染者があります。支部報がお手元に届くころには状況の改善の兆しが見えてくるのでしょうか？

秋の空を見上げて大きく深呼吸をしたいものです。そのためにも体力の維持を。